思考力・判断力・表現力をはぐくむ効果的なＩＣＴ活用の在り方
－小学校第３学年国語科「わたしたちのまちをしょうかいしよう」でのＩＣＴ機器の活用を通して－

結城市立江川北小学校　小倉　康雄

１　実践の概要

平成23年度から全面実施された新学習指導要領では「言語活動の充実」を図ることが大きな柱となっている。特に国語科では，相手や目的を明確にした具体的な言語活動を設定して単元を構想し，児童の思考力・判断力・表現力をはぐくむことが重要である。

本実践では小学校第３学年国語科において「わたしたちのまちをしょうかいしよう」という単元を構想した。自分たちのまちにある事物や行事等について他校の児童に紹介するという単元の学習課題を設定した。地域や学校の自慢を他校の人に知らせるという言語活動を通して，相手や目的に応じて，伝えたい内容を筋道立てて，適切な言葉遣いで話す力を付けたいと考えた。そのために，児童が目的意識，相手意識を明確にして思考力・判断力・表現力をはぐくめるような効果的なＩＣＴ機器の活用の在り方について探った。ＩＣＴ機器として，デジタルカメラや大型テレビ，茨城県教育情報ネットワークのテレビ会議システムを活用して学習を進めた。

２　実践事例

(1) 単元名／教材名　　わたしたちのまちをしょうかいしよう／
「話したいな，夏休みの出来事」（東京書籍）

(2) 身に付けたい力と言語活動との関連

地域や学校の自慢を他校の人に知らせるという言語活動を通して，相手や目的に応じて，伝えたい内容を筋道立てて，適切な言葉遣いで話す力を付ける。

(3) 目　標

○　地域や学校にちなんだ催しや行事などについて，これまで学習したことをもとに，伝えたい内容を決め，筋道立てて話したり，話の中心に気を付けて聞こうとしたりする。
（国語への関心・意欲・態度）

○　伝えたい内容を整理して，順序よく筋道立てて話すことができる。
（話す・聞く能力）

○　話の中心に気を付けながら聞き，質問や感想を述べることができる。
（話す・聞く能力）

○　指示語や接続語が文相互の関係を表す手掛かりになっていることを理解し，話したり聞いたりすることができる。　（言語についての知識・理解・技能）

(4) 単元の構想

①　取り上げる言語活動について

小学校学習指導要領・国語の第３学年及び第４学年「Ａ話すこと・聞くこと」の指導事項の中から，特に「イ　相手や目的に応じて，理由や事例などを挙げながら筋道を立て，丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと」を取り上げて指導することをねらいとした。

その際，「Ａ話すこと・聞くこと」の言語活動例に示す「ア　出来事の説明や調査の

報告をしたり，それらを聞いて意見を述べたりすること」を通して指導の効果を高めようと考えた。言語活動例アに示す言語活動を学習の時期や児童の実態に応じ，学校や地域の催し，地域にちなんだ行事等について説明する内容とし「わたしたちのまちをしょうかいしよう」として具体化することにした。

② 児童の実態

本学級の児童はみんなの前でスピーチをすることに対する抵抗が少ない児童が多い。これは，朝の会でのスピーチや帰りの会での一日の反省などを交代で全員の児童が行ってきていることも要因の一つであると考えられる。また，児童は１学期に「えらんだ理由を話そう」において自分の考えたことと，その理由をはっきりさせて話すという学習を経験している。その時の学習でも多くの児童がみんなの前で意欲的にスピーチに取り組んでいた。しかし，伝えたい内容を整理し，筋道立てて話したり，相手意識をもって，分かりやすく話したりすることに対する意識は低い。そのための知識・技能が十分に身に付いている児童も少ない。

③ 教材について

本単元では，教科書教材「話したいな，夏休みの出来事」を参考にして，総合的な学習の時間や社会科での学習内容を教材として活用することにした。教材となる内容は，学校や地域にちなんだ催しや行事である。それらのうちから他校の児童に紹介したいことを選んで説明することによって，児童は相手意識や目的意識を明確にして，伝えたい内容を筋道立てて分かりやすく話すことができるようになると考えた。

④ 単元構想

単元構想にあたって，まず学習課題を「わたしたちのまちのじまんを他校の友達にしょうかいしよう」と設定した。このような学習課題の設定によって，児童が相手意識や目的意識を明確にしてスピーチを行えるようにしたいと考えた。また，紹介するまちの様子を児童自身がデジタルカメラで撮影し，その写真をもとに，学校や地域の自慢についてスピーチを行おうと考えた。一枚の写真をもとに，話す内容の概要，関心をもった理由，そのような考えになった根拠，事例等について筋道立てて話せるようにしたいと考えた。さらに，茨城県教育情報ネットワークのテレビ会議を活用してスピーチを行うことを学習のゴールとした。そのために，グループで各自のスピーチを互いに聞き合い，アドバイスし合いながらより分かりやすいスピーチができるよう，児童それぞれが自分のスピーチについて思考・判断し，表現できるようにさせたい。このような単元設定によって，本単元での付けたい力である「相手や目的に応じて，伝えたい内容を筋道立てて，適切な言葉遣いで話す力」を付けようと考えた。

(5) ＩＣＴ活用のポイント

「テレビ会議を使って自分たちの地域について紹介するスピーチをする」という言語活動を行う単元を構想し，学習の過程においてＩＣＴ機器を活用したり，友達同士で交流したりする活動を設定した。

学習のゴールとしてテレビ会議を活用したスピーチを設定することによって，児童の相手意識や目的意識が明確になると考えた。また，デジタルカメラの動画機能を活用して，自分のスピーチが相手に分かりやすいか，話し方（声の大きさ，視線，抑揚等）はどうかについて児童が自分のスピーチについて吟味しながら学習を主体的に進めていけ

るようにした。

このようにして児童の思考力・判断力・表現力をはぐくむ効果的なＩＣＴ活用を行っていこうと考えた。

(6) 評価規準

① 伝えたい内容を決め，筋道立てて話したり話の中心に気を付けて聞いたりしている。（関心・意欲・態度）

② 伝えたい内容を整理して，順序よく筋道立てて話している。（話す・聞く能力）

③ 話の中心に気を付けながら聞き，質問や感想を述べている。（話す・聞く能力）

④ 指示語や接続語が文相互の関係を表す手掛かりになっていることを理解し，話したり聞いたりしている。（言語についての知識・理解・技能）

(7) 指導と評価の計画

次	時	**【学 習 過 程】**・学 習 活 動・内 容	評価規準**（６つの力）**
1	1	**【これまでの学習を振り返り，これからの学習の見通しをもつ・つなぐ，とらえる】** ○１学期のスピーチ学習を振り返り，２学期のスピーチ学習での自分なりのめあてをもつ。 ○これからの学習の見通しをもち，学習計画を立てる。 ・学習課題「わたしたちのまちのじまんを他校の友達にしょうかいしよう。」を設定する。	①学習のねらいを意識して，学習計画を立てている。 **（とらえる力）**
2	1 2 3	**【話す内容や構成を考え，スピーチ原稿を作成する・調べる】** ○自分が話したい内容を考える。 ○分かりやすく伝えるためにスピーチの構成を考える。 ○スピーチ原稿を作成する。	①学校や地域の催し，行事などから自分の伝えたい内容を決め，筋道を考えながらスピーチ原稿を作成している。 **（調べる力）**
	4 5	**【スピーチ原稿をもとに，グループでスピーチの練習をする・交流する】** ○スピーチ原稿をもとに，各自スピーチの練習をする。 ○グループでスピーチを聞き合い，アドバイスし合う。	③お互いのスピーチを聞き合い，友達にアドバイスされたことをもとに内容や話し方を考え，伝えたいことがより相手に伝わるスピーチを工夫している。 **（伝える力）** ④指示語や接続語の使い方に気を付けながら話したり聞いたりしている。 **（評価する力）**

3	1 2	**【相手を意識して，スピーチをしたり聞いたりする・生かす】** ○クラス内発表会を行い，聞き手を意識してスピーチをしたり，聞いたりする。 ○他校の友達に，テレビ会議を使ってスピーチをする。	②聞き手を意識して，伝えたい内容を順序よく整理して話している。 **（伝える力）** ③話の中心に気を付けて聞き，　質問したり感想を伝えたり　している。 **（伝える力）**
	3	**【これまでの学習を振り返り，学習のまとめをする・ふりかえる】** ○単元での学習を振り返り，身に付いた力や今後の生活に生かしたいことについてまとめる。	①単元全体をふりかえり，スピーチの仕方について，自分が身に付けた力や今後に生かしたいことについて考えをまとめている。 **（まとめる力）**

3　実践事例についての分析・考察

本単元では，デジタルカメラ，大型デジタルテレビ，茨城県教育情報ネットワークのテレビ会議システムといったＩＣＴ機器を活用した。単元の最初には社会科や総合的な学習の時間での地域学習の内容を想起させ，自分が紹介したいものや場所を学校から貸し出したデジタルカメラで撮影してくるようにした。その際に，どんな角度や距離で被写体を撮ると効果的かについても事前に指導した。この作業によって，それぞれの児童は自分が何を紹介するのかについて明確にすることができた。（資料１）

また，体育館（第２次　第５時）でのグループでの発表の練習の時には，デジタルカメラの動画機能を活用して，スピーチをしている様子を撮影し合った。さらに大型デジタルテレビとデジタルカメラをつないで大きな画面でもスピーチの様子を確認できるようにした。児童は自分がどのような姿でスピーチをしているかを確認することができた。特にスピーチの技能面について，より効果的なスピーチをするのにどうしたらよいか考えるのには撮影した動画は効果的であった。（資料２）

単元の最後に，茨城県教育情報ネットワーク内にあるテレビ会議システムを使って他校の３年生に向けて自分たちのまちについて紹介するスピーチをした。児童はテレビ会議を使ってスピーチをすることを楽しみに単元の学習を進めてきており，本番は緊張しながらも大きな声で画面に映る他校の３年生を意識しながら発表できた。（資料３）

事後のアンケート調査では「テレビ会議でのスピーチは楽しく行えましたか」（30人中）に対して「とても楽しくできた（24人）」「楽しくできた（４人）」と答えている。その理由として「他校の友達が真剣に聞いてくれた」「他校の友達がいい感想を言ってくれた」など相手との交流を挙げた児童が一番多く10人いた。これは，相手意識を明確にもちながら学習を進めてきた児童にとって，最後に自分のスピーチを違う学校の３年生に聞いてもらい感想をもらえたことが，伝えることの楽しさを感じることにつながったと考えられる。

資料４に示すアンケート調査の結果（複数回答）を見ると，事前調査では，スピーチをする時に大切なこととして児童が挙げた項目数は８つであったが，事後では15に増え

ていた。記述内容も事前より事後の方がより具体的になっていた。また，アンケート結果の黄色の項目に示すように相手意識を明確にして，内容面について工夫することの大切さに気付いた児童が事前より増えた。事後アンケートで，声の大きさの次に視線について挙げた児童が多かったが，これはデジタルカメラで自分の話す様子を確認した際に，下を見て話していることに気付いたからであると考えられる。

このように，ＩＣＴ機器を効果的に活用することで児童は相手意識や目的意識を明確にして，分かりやすい言葉を選んだり，話す順番や内容構成を考え，話し方を工夫してスピーチをすることができたと考える。

4　成果と課題

本単元の学習では，単元の学習課題を工夫して，それに合わせて効果的にＩＣＴ機器を活用することを通して，思考力・判断力・表現力をはぐくもうと考えた。単元を通して，児童は相手意識や目的意識を明確にして学習を進めることができた。相手や目的を明確にしてＩＣＴ機器を活用することで，児童は各学習過程で言葉を吟味したり，構成を考えたり，話し方を工夫したりして「相手や目的に応じて，伝えたい内容を筋道立てて，適切な言葉遣いで話す」ことができるようになっていったと考える。

課題としてはＩＣＴ機器の準備や授業での操作，グループでの交流への支援等が，一人の教師では十分に行えなかったことが挙げられる。

資料１　児童が撮影した写真

資料２　体育館でのグループ練習の様子

資料３　テレビ会議システムを使ってのスピーチ発表の様子

資料４　スピーチをする時に大切なことは何だと思いますか

No.	項目	良い	改善	合計
1	声の強弱に気を付けること	31	9	40
2	視線を聞き手に向けること	7	12	19
3	間の取り方に気を付けること	10	2	12
4	分かりやすい言葉を選んで話すこと	9	1	10
5	声の抑揚に気を付けて話すこと	4	4	8
6	筋道を立てて話すこと	6	1	7
7	言葉の使い方に気を付けること	4	0	4
8	資料の示し方に気を付けること	3	1	4
9	言葉の終わり方を工夫すること	2	2	4
10	身振りや手振りを入れて話すこと	3	0	3